

バリ島と伊勢原

農業交流その七

続けること つなぐこと

二〇〇九年十月バリ島ブサキ第六小学校生10名を伊勢原に招いた時、初めて食べた柿を「美味しい」その言葉・姿から柿を交流のシンボルとしました。

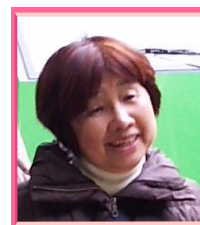
二〇一一年三月、ブサキ寺院で柿の植樹式を行うにあたり、柿の種類選定を神奈川農業技術センターの関達哉さんをお願いし、富有柿・前川早生次郎・松本早生富有・正月・そして授粉樹として禅師丸（子易柿）を選んで頂きました。川崎発祥の禅師丸は海を越え、バリ島に植えられ、歴史を刻んでいます。

以来、柿を育てる為とバリ島では農業の低い生産性のため、子育てが難しいとの状況を知り、多種多様な農業生産活動が出来ている伊勢原との農業交流をはじめ、今回で7回目の農業交流となりました。

二〇一五年六月より産業能率大学が活動に参加して下さり、二〇一六年三月の交流には東海大学の皆さん、この度は東京農業大学との出会いもありました。

異文化交流は、若者にとって人生設計の羅針盤のひとつとなります。続けること つなぐこと つなぐことが出来ること 活動のその時々により機動的な組織が出来ている。

伊勢原市をはじめ各団体、個人の皆様様の知恵と多大なご支援の賜です。紙面をお借りしまして深く感謝申し上げます。誠にありがとうございます。



研修に来日したバリ州国立ウダヤナ大学の学生さん



Ida Bagus Made Wirawan さん

専門は agribussines



I Kade Darmawan さん

専門は plant nurserry



1 1月7日きのご農園といちご農園は東京農業大学名誉教授藤垣順三さんに通訳をお願いしました

バリ島の柿の木



2017年1月2日

友好の証として、二〇一一年バリ島に贈った、柿の木です。今年で約六年が経ちました。現在元気に育っている六本の柿の木を確認できました。異国の地、南半球のバリ島で乾季と雨季をしっかりと覚えてけなげに育っています。

一月のこの時期に青々とした葉をつけます。落葉もするようで、常緑樹がほとんどのバリ島の人が枯れたかと心配したそうです。

